

創立
70周年
記念
★★★

特別演奏会 マーラー〈千人の交響曲〉

2026年6月21日(日) 17:00 / 6月22日(月) 19:00

サントリーホール 指揮: カーチュン・ウォン [首席指揮者]

ソプラノⅠ (罪深き女): 船越亜弥 ソプラノⅡ (懺悔する女): 吉田珠代

ソプラノⅢ (栄光の聖母): 三宅理恵 アルトⅠ (サマリアの女): 花房英里子

アルトⅡ (エジプトのマリア): 中島郁子 テノール (マリア崇敬の博士): 宮里直樹

バリトン (法悦の教父): 青山貴 バス (瞑想する教父): 加藤宏隆

合唱: 日本フィルハーモニー協会合唱団、武蔵野合唱団、
東京音楽大学合唱団、杉並児童合唱団

マーラー: 交響曲第8番《千人の交響曲》変ホ長調

チケット料金 (税込) _____
SS ¥15,000 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,500 Ys (25歳以下) ¥5,000

好評
発売中!



© 山口敦

創立
70周年
記念
★★★

日本フィルの「交響三題!」 好評発売中!

2026年5月16日(土) 14:00 東京芸術劇場

2026年5月17日(日) 14:00 サントリーホール

指揮: 藤岡幸夫

シベリウス: 交響詩《フィンランディア》

チャイコフスキー: 交響曲第5番

ベルリオーズ: 幻想交響曲

お得な
セット券あり!
詳細は挟み込みの
チラシをご覧ください。



© Shin Yamagishi

チケット料金 (税込)

[5/16]

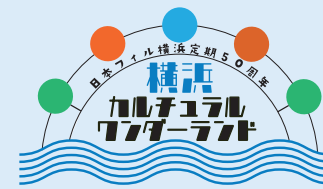
S席 ¥8,500 A席 ¥7,000 B席 ¥6,000 C席 ¥5,000 D席 ¥3,500

Gs (70歳以上) 席 ¥5,000 Ys (25歳以下) 席 ¥2,500

[5/17]

S席 ¥9,000 A席 ¥7,500 B席 ¥6,500 C席 ¥5,500 P席 ¥4,500

Gs (70歳以上) 席 ¥5,500 Ys (25歳以下) 席 ¥2,500



人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。

JAPAN
PHILHARMONIC
ORCHESTRA

— 創立指揮者 渡邊 暁雄 —

日本フィルハーモニー交響楽団
JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

第415回

横浜定期演奏会

415th YOKOHAMA Subscription Concert

2026年3月21日(土) 午後3時開演

横浜みなとみらいホール

3:00pm March 21st (Sat.), 2026, at Yokohama Minato Mirai Hall



主催: 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援: 神奈川新聞社、+vkk(テレビ神奈川)

協力: 横浜みなとみらいホール

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))

独立行政法人日本芸術文化振興会



70周年記念特別定期演奏会 横浜定期演奏会

横浜みなとみらいホール 土曜 15時開演

第416回 2026年4月25日

尾高忠明と前橋汀子——円熟の輝きが舞台を満たす
指揮：尾高忠明 ヴァイオリン：前橋汀子
ディーリアス：楽園への道（歌劇《村のロメオとジュリエット》より）
メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲
シベリウス：交響曲第5番

S¥9,000 A¥7,500 B¥6,500 C¥5,500 P¥5,000 Ys¥2,500

第417回 2026年5月9日

小林研一郎と小山実稚恵、この二人だからこそ叶う「楽興の時」
指揮：小林研一郎 [桂冠名誉指揮者] ピアノ：小山実稚恵
ベートーヴェン：《エグモント》序曲
ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第3番
ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番《皇帝》

S¥9,500 A¥8,000 B¥7,000 C¥6,000 P¥5,000 Ys¥2,500

第418回 2026年6月27日

盟友と紡ぐブルッフのロマンと勝利のベートーヴェン
指揮：広上淳一 [フレンド・オブ・JPO (芸術顧問)]
ヴァイオリン：ボリス・ベルキン
モーツァルト：歌劇《劇場支配人》序曲
ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲第1番
ベートーヴェン：交響曲第5番《運命》

S¥9,500 A¥8,000 B¥7,000 C¥6,000 P¥5,000 Ys¥2,500

第419回 2026年7月4日

情熱と色彩が彩る、ドラマティックで美しい音楽の旅
指揮：西本智実 ピアノ：實川風
サン＝サーンス：歌劇《サムソンとデリラ》より「バッカナール」
グリーグ：ピアノ協奏曲
チャイコフスキー：交響曲第6番《悲愴》

S¥9,000 A¥7,500 B¥6,500 C¥5,500 P¥5,000 Ys¥2,500

第420回 2026年9月19日

待ち望まれた再会は、甘美と衝撃の傑作で
指揮：オッコ・カム ピアノ：河村尚子
ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番
ストラヴィンスキー：バレエ音楽《春の祭典》

S¥9,500 A¥8,000 B¥7,000 C¥6,000 P¥5,000 Ys¥2,500

横浜定期 年間会員券 (Ys:25歳以下/S席除く)

S ¥58,000 A ¥48,000 B ¥42,000 C ¥36,000
P ¥27,000 (全9回) Ys ¥15,000

半期会員券

【春夏】S ¥33,000 A ¥28,000 B ¥24,000
C ¥21,000 P ¥17,000 Ys ¥9,000
【秋冬】S ¥34,000 A ¥29,000 B ¥25,000
C ¥21,000 P ¥14,000 (全4回) Ys ¥9,000

第421回 2026年10月31日

小林研一郎との絆の証
指揮：小林研一郎 [桂冠名誉指揮者]
オーボエ：杉原由希子 [首席奏者] クラリネット：伊藤寛隆 [首席奏者]
ホルン：信末碩才 [首席奏者] ファゴット：田吉佑久子 [首席奏者]
モーツァルト：ディヴェルティメント ニ長調 K.136
モーツァルト：協奏交響曲 変ホ長調 K.297b
ベートーヴェン：交響曲第7番

S¥9,500 A¥8,000 B¥7,000 C¥6,000 P¥5,000 Ys¥2,500

第422回 2026年11月22日(日)

サーの称号を持つ名ピアニストが、カーチュン・ウォンと再び豪華「響」演
指揮：カーチュン・ウォン [首席指揮者]
ピアノ：サー・スティーヴン・ハフ
ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番《皇帝》
サン＝サーンス：交響曲第3番《オルガン付き》

S¥9,500 A¥8,000 B¥7,000 C¥6,000 P¥5,000 Ys¥2,500

第423回 2026年12月19日

心震わす歓喜の歌とどもに、新しい年へ
指揮：阪 哲朗
ソプラノ：隠岐彩夏 カウンターテナー：藤木大地
テノール：小堀勇介 バリトン：池内 響
合唱：東京音楽大学合唱団
ベートーヴェン：交響曲第9番《合唱》

S¥10,000 A¥9,000 B¥7,500 C¥6,000 P合唱団 Ys¥4,000

第424回 2027年1月9日

カーチュン・ウォンと祝うニューイヤーコンサート！
指揮：カーチュン・ウォン [首席指揮者]
トランペット：児玉隼人
ハチャトゥリアン：組曲《仮面舞踏会》
ハイドン：トランペット協奏曲
J.シュトラウスII世：喜歌劇《こもり》序曲
J.シュトラウスII世：ワルツ《美しく青きドナウ》
ラヴェル：《ダフニスとクロエ》第2組曲

S¥9,500 A¥8,000 B¥7,000 C¥6,000 P¥5,000 Ys¥2,500

第425回 2027年3月27日

ユーラシアとローマ、音楽が描く壮大な歴史絵巻
指揮：カーチュン・ウォン [首席指揮者]
ヴァイオリン：田野倉雅秋 [ソロ・コンサートマスター]
ポロディン：歌劇《イーゴリ公》序曲
ハチャトゥリアン：ヴァイオリン協奏曲
ムソルグスキー（リムスキー＝コルサコフ編曲）：交響詩《はげ山の一夜》
レスピーギ：交響詩《ローマの松》

S¥9,500 A¥8,000 B¥7,000 C¥6,000 P¥5,000 Ys¥2,500

炎のコバケンと日本フィルの名手が奏でる、至高のモーツァルトと英雄

桂冠名誉指揮者小林研一郎と首席クラリネット奏者の伊藤寛隆との横浜定期演奏会。今回は交響曲の世界で革命を巻き起こしたベートーヴェンの第3番《英雄》と、典雅で夢見るような情景が展開するモーツァルトのクラリネット協奏曲という絶品プログラムをお贈りいたします。伊藤は長年にわたって日本フィルのクラリネット・セクションを牽引している功労者であり、かけがえのない存在。もちろん小林マエストロからの信頼も絶大で、この両者が共演するコンチェルトですから期待せずにはられません。後半の《英雄》はベートーヴェンが34歳の時に書き上げた野心作。今では古楽的なアップテンポのアプローチも増えていますが、我らがマエストロ・コバケンとはあくまで重厚なスタイルによる堂々たる演奏をお届けします。

Programs

モーツァルト：

クラリネット協奏曲 イ長調 K.622 (約30分)

Wolfgang Amadeus MOZART: Concerto for Clarinet and Orchestra in A-major, K.622

—— 休憩 (20分) Intermission ——

ベートーヴェン：

交響曲第3番《英雄》変ホ長調 op.55 (約52分)

Ludwig van BEETHOVEN: Symphony No.3 "Eroica" in E-flat major, op.55

指揮：小林研一郎 [桂冠名誉指揮者]

Conductor: KOBAYASHI Ken-ichiro, Honorary Conductor Laureate

クラリネット：伊藤寛隆 [首席奏者]

Clarinet: ITO Hirotaka, Principal Player

コンサートマスター：木野雅之 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: KINO Masayuki, JPO Solo Concertmaster

© 山本倫子



指揮：小林研一郎 [桂冠名誉指揮者]

“炎のコバケン”の愛称で親しまれる日本を代表する指揮者。東京藝術大学作曲科、及び指揮科の両科を卒業。1974年第1回ブタペスト国際指揮者コンクール第一位、及び特別賞を受賞。2002年ブラハの春音楽祭では東洋人初のオープニング「わが祖国」を指揮して万雷の拍手を浴びた。これまでにハンガリー国立フィル、チェコ・フィル、アーネム・フィル、ロイヤル・

コンサートへボウ管、フランス国立放送フィル、ローマ・サンタ・チェチーリア国立管、ロンドン・フィル、ハンガリー放送響、N響、読響、日本フィル、都響等の名立たるオーケストラと共演を重ね、数多くのポジションを歴任。ハンガリー政府よりハンガリー国大十字功勞勲章（同国で最高位）等、国内では旭日中綬章、文化庁長官表彰、恩賜賞・日本芸術院賞等を受賞。作曲家としても数多くの作品を書き、1999年に日本・オランダ交流400年記念の委嘱作品、管弦楽曲『パッサカリア』を作曲、ネーデルランド・フィルハーモニー管弦楽団によって初演されると、聴衆から熱狂的な喝采を以て迎えられた。同作品はそれ以降も様々な機会に、アシュケナージ指揮N響、小林研一郎指揮日本フィル等で再演されている。2005年、社会貢献を目的としたオーケストラ「コバケンとその仲間たちオーケストラ」を設立、以来全国にて活動を続けている。CD、DVDはオクタヴィア・レコードより多数リリース。著書に『指揮者のひとりごと』（日本図書協会選定図書）等がある。現在、日本フィル桂冠名誉指揮者、ハンガリー国立フィル・名古屋フィル・群響桂冠指揮者、読売日響特別客演指揮者、九響名誉客演指揮者、東京藝術大学・東京音楽大学・リスト音楽院名誉教授、ローム ミュージック ファンデーション評議員等を務める。

公式ホームページ <https://maestro-kobaken.com/>



← YouTube チャンネル

【2分でわかる大人のためのオーケストラ入門 Plus+】
X、Instagram では2分バージョン配信中！

© 井村重人



クラリネット：伊藤寛隆 [首席奏者]

1968年鎌倉生まれの鎌倉育ち。1990年洗足学園大学音楽学部を優秀賞を受けて卒業。クラリネットを角田晃、池松和彦、浜中浩一の各氏に、室内楽を伊達純氏に師事した。NHK 洋楽オーディション合格。NHK-FMリサイタルやベストオブクラシック、東京文化会館推薦新進音楽家デビューコンサートなどに出演。第4回日本木管コンクール第3位、第4回日本クラリ

ネットコンクール第2位（1位なし）などを受賞。明治安田生命クオリティオブライフ文化財団奨学生。

1994年日本フィルハーモニー交響楽団に入団、翌年より首席クラリネット奏者を務めている。日本フィルハーモニー交響楽団とはモーツァルトの協奏曲や協奏交響曲をはじめ、ウェーバー第1番、第2番、ジャン・フランセ、コープランド、フィンジなどのクラリネット協奏曲やドビュッシーの第一狂詩曲といった作品でソリストを務め、小林研一郎、ジェームス・ロフホラン、尾高忠明、沼尻竜典、飯森範親、藤岡幸夫、下野竜也、ピエタリ・インキネン、山田和樹といった素晴らしいマエストロと共演してきた。

教育分野においては国立音楽大学大学院客員教授、洗足学園音楽大学大学院客員教授を務める。ビュッフェクラリネット専属講師。D'Addarioアーティスト。一般社団法人日本クラリネット協会理事。



© István Kohán



今日のコンサートの聴きどころは？

音楽評論家八木宏之さんの

楽しい解説をお楽しみください！

14時20分
より
大ホール内
にて♪

八木宏之（やぎ ひろゆき）● 1990年東京生まれ。青山学院大学文学部史学科芸術史コース卒業。愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士前期課程（修士：音楽学）およびソルボンヌ大学音楽専門職修士課程（Master 2 Professionnel Médiation de la Musique）修了。2021年春にWebメディア『FREUDE』を立ち上げ、その運営を行う株式会社メディアアシオンを設立。クラシック音楽を中心に、プログラムノートやライナーノーツを多数執筆するほか、コンサートのプレトークなども積極的に行なっている。

モーツァルト：クラリネット協奏曲 イ長調 K.622

この作品は、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756-1791) 最晩年に書かれたもの。曲は、当時並ぶものなかったといわれるクラリネットの名手、アントン・シュタードラーのために作られた。晩年のモーツァルトはこの楽器のために、もう1つの傑作「クラリネット五重奏曲」も作曲し、シュタードラーに捧げている。

当時は、元々軍楽隊の楽器だったクラリネットに様々な改良が加えられ、エレガントな音も出せるようになりつつあった。またそれゆえ、一口に「クラリネット」といっても、幾つもの新種の楽器が登場しており、シュタードラーが当時使用していたのも通常のA管ではなく、低音が拡張されたバセット・クラリネットという特注楽器だった。そのためもとの作品は通常の楽器では演奏できない箇所があり、現在はA管用に編曲されたものが主流となっている。(今日はバセット・クラリネットを用いて演奏がおこなわれるので、この点も要注目だ。)

モーツァルトはきわめて進取の気性に富んでおり、当時作られつつあったいくつもの最新楽器のために曲を書いている。またそんな彼だからこそ、まだ新しい楽器であったクラリネットを気に入り、低音から高音までの音色の特徴を最大限に生かした独奏パートを作曲しえたのだろう。また、オーケストラパートの果たす役割も独奏クラリネットと同等のウェイトをもっており、双方は幸福なバランスをたたえて、聴く人を天国的な境地へと誘う。

なおこの曲を作曲した約1ヵ月後、モーツァルトは35歳の若さで亡くなってしまふ。そうしたことからこの曲には、死期を迎えた天才が到達した静かで澄み切った世界が描かれていると言われているが、おそらくそれだけではあるまい。晩年に近づくほど、以前であれば「饒舌に過ぎる」と言われたほどの夥しい音符を極限まで削り、透明な作風を目指すようになったモーツァルトならではの挑戦心、実験精神もそこからは読み取れるのだから。

第1楽章：アレグロ

オーケストラが典雅で明るい世界を描き出し、クラリネットが生き活きと歌いだす。独奏とオーケストラが互いに呼応しあい、モーツァルト独特の「天上的」な響きをかもしだす。

第2楽章：アダージョ

弦楽器の伴奏に乗って、クラリネットが寂寞としたモノローグを展開する。シンプルな中に味わい深い陰影のある楽章。

第3楽章：ロンド アレグロ

第2楽章の雰囲気から一転し、軽やかな戯れに満ちた明るい世界が繰り広げられる一方、そこにはほのかな憂愁の影も漂う。クラリネットの名人芸が披露される中でクライマックスが築かれ、さわやかな幕切れとなる。

楽器編成 独奏クラリネット、フルート2、ファゴット2、ホルン2、弦楽5部。

ベートーヴェン：交響曲第3番《英雄》変ホ長調 op.55

卓越したピアニストとしても活躍していたルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン(1770-1827)が、生涯抱えることとなる耳の病で苦悩のどん底にあった1802年。だが同年10月に書かれたいわゆる「ハイリゲンシュタットの遺書」からは、一時は自殺をも考えた彼が、早くもこの苦悩を精神的に乗り越えようとしていたことが読みとれる。彼の創作力は、音楽家にとっては致命的ともいえる肉体的ハンディを克服するかのように、爆発的な現れを見せたのだった。(なおその後のベートーヴェンは、演奏活動も作曲活動もおこなうのが普通だった当時の音楽家の常識を覆し、耳の病を逆手にとって、作曲に主軸を置いた音楽家という独自の立ち位置を築き上げてゆく。)

そんな出来事が起きてから間もない1803年から翌1804年にかけて、当交響曲は作曲された。なおこの作品は当初「ボナパルテ」と題されており、フランス革命期に現れた英雄ナポレオン・ボナパルトに献呈するつもりで筆が進められていた。しかし、民衆の代表であり自由解放の旗手と思われていたナポレオンは、1804年5月に皇帝に即位。それに憤慨したベートーヴェンが、浄書譜の表紙に書かれていた献辞をペンで荒々しく抹消した結果、当該箇所には大きな穴が開いているのだが、その理由が単にナポレオンの皇帝即位に由来するものかどうかについては、近年様々な議論がおこなわれている。

いずれにしてもこの作品はその後、「英雄的交響曲 ある偉大なる人の思い出に捧げる」という別題を与えられた。しかもかつての“英雄”ナポレオンを念頭に置いて書かれたこの交響曲は、交響曲の歴史の流れを革命的に変えた典型的な作品と化した。当時の交響曲まるまる1曲分の長さに匹敵する第1楽章を支える長大なソナタ形式、最終楽章に聴かれる緻密な構成の変奏曲などは、その一例だ。またオーケストレーションの面でも、ホルンが3管に拡大されたほか、チェロとコントラバスがそれぞれ独自の動きを見せるなど、多くの点で革新が見られる。

第1楽章：アレグロ・コン・プリオ

変ホ長調(文字通り「英雄」を表す調として用いられてきた)の強靱な和音の打撃に続き、分散和音を主体とした雄大な“英雄主題”が登場する。この主題を中心にさまざまな展開がなされ、そうした展開に付き物の「困難」をもものともしない英雄像(それはベートーヴェンのそれと同質のものといえるだろう)がうかがわれる。20世紀音楽を先取りしたかのような再現部直前の不安定な和音(属七)すらも超えて続く勇壮な響きにおいても、それは明らかだろう。

第2楽章：葬送行進曲 アダージョ・アッサイ

「陰鬱さ、寂しさ」を表現するハ短調に基づいた葬送行進曲。緩徐楽章に葬送行進曲を置くのは、1801年にベートーヴェンが作った『ピアノソナタ第12番』にも前例が見られる。この交響曲ではさらに表現が深められ、沈鬱な英雄の死だけでなく、中間部には英雄の復活をも予感させるような輝かしい箇所をも伴った、深遠な内容となっている。

第3楽章：スケルツォ アレグロ・ヴィヴァーチェ

『交響曲第1番』『同第2番』でもすでに予感されていた、ベートーヴェンの本格的なスケルツォ楽章。英雄の復活を予見させるかのように、さざめきの中から爆発的に高まるエネルギーな主部にはさまれ、中間のトリオ部では3本のホルンによる角笛の音(文字通り「英雄」を表現する響き)が、輝かしく演奏される。

第4楽章：フィナーレ アレグロ・モルト

旧作のバレエ音楽『プロメテウスの創造物』からとられた変奏曲。と言っても通常の変奏曲とは異なり、最初に主題が示されるのではなく、断片的な動機が変奏を通じて1つの主題に結実してゆくという、斬新な構成となっている。神々の世界から人間に火をもたらした受難者プロメテウスが、ベートーヴェンの理想とする英雄像として姿を現わし、変容を遂げてゆくかのようだ。簡潔な主題呈示から壮大な音絵巻へと展開するありさまは、まさに“変奏の名人”ベートーヴェンの真骨頂が発揮されたフィナーレである。

楽器編成 フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン3、トランペット2、ティンパニ1、弦楽5部。

この演奏会では、目の不自由なお客様のために点字プログラムをご用意しております。ご希望の方は主催受付までお申し出ください。

●お客様へのお願い●

演奏中はお手持ちの時計のアラーム、または携帯電話などの電源はお切りください。手荷物、傘、チラシ類などの物音、話し声や体の動きなどで他のお客様のご迷惑にならないようご配慮をお願い申し上げます。尚、録音、録画、演奏中の写真撮影は固くお断りしております。

Next YOKOHAMA

第416回 横浜定期演奏会

2026年4月25日(土) 15:00
横浜みなとみらいホール

尾高忠明と前橋汀子 —
円熟の輝きが舞台を満たす

指揮：尾高忠明 ヴァイオリン：前橋汀子

ディーンリアス：楽園への道(歌劇《村のロメオとジュリエット》より)

メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲

シベリウス：交響曲第5番

S席 ¥9,000 A席 ¥7,500 B席 ¥6,500 C席 ¥5,500 P席 ¥5,000 Ys席 ¥2,500

※ Ys席：25歳以下の方が対象のお席です。S席以外から選べます。

©Martin Richardson



尾高忠明

©岡本隆史



前橋汀子



Column

歴史でひもとく! ~クラシックこぼれ話 by 小宮正安



モーツァルトの実験精神

グラスハーモニカ、自動オルガン…。18世紀後半に発明され、今日では(複製や特別注文を除いて)ほとんどお目にかかれない楽器である。

例えばグラスハーモニカだが、グラスに水を入れて飲み口を濡れた手で触ると「キーン」という音が出るという理論に基づいたもの。異なる大きさのガラス製の円盤を並べて足踏みペダルと連動させ、グルグルと回して音を出すという仕掛けだった。当然大変に重く、持ち運びも不便な上に壊れやすいという事情に加え、その音を聴くと精神が異常をきたすという噂が広まり、廃れてしまった。自動オルガンは、自動オルゴールに似た仕掛けで、ゼンマイ駆動で巨大な円盤が回り、そこに刻まれた穴と連動して様々な音が出るというもの。といっても、本物のパイプオルガンのような壮麗な音を出すまでには至らず、これまた故障しやすい代物で、こちらもやがては姿を消してしまった。

だが、そんな今や幻となった「珍楽器」を念頭に、まさにそうした楽器が生まれた時代を生きたモーツァルトは幾つかの曲を書いている。いや、そうした意味では、当時はピアノもクラリネットも、発展途上、開発途上の楽器だった。モーツァルトがグラスハーモニカや自動オルガンのために書いた曲はめったに演奏されないにもかかわらず、ピアノやクラリネットのために書いた作品がしばしば取り上げられるのは、後者が今日まで生き残ったおかげに他ならない。それでも本日演奏される『クラリネット協奏曲』のように、元々は当時最新の楽器でありながら、やはりその後消滅してしまったバセット・クラリネットのために曲が書かれ、それがやがて現在流布しているクラリネットに置き換えられて演奏されるようになった、という例もある。こういった具合に、実のところモーツァルトは、単に優美で華麗な作品を送り出し続けた音楽家ではない。むしろその背後には、旺盛な実験精神が豊かに具わっていた。またそうした実験精神を自分なりの方法で受け継いでいったのが、彼のことをこよなく尊敬していたベートーヴェンだった。

18世紀後半の名クラリネット奏者シュタードラーの演奏会のポスター。最上部にバセット・クラリネットが描かれている。1794年。



2026年7月及び9月の東京定期演奏会、9月横浜定期演奏会の内容が一部確定いたしましたので謹んでお知らせ申し上げます

※下線が変更点

第782回東京定期演奏会

2026年7月10日(金) 19:00、11日(土) 14:00 サントリーホール

指揮: フランソワ・ルルー ※プログラムについては引き続き調整中です。
 曲目: 調整中 決まり次第改めてお知らせいたします。

(チケット料金調整中)

第783回東京定期演奏会

◆発売日: 3月16日(月) 10:00 ~

2026年9月11日(金) 19:00、12日(土) 14:00 サントリーホール

指揮: カーチュン・ウォン [首席指揮者]

シヨスタコーヴィチ: 交響曲第7番《レニングラード》

S席 ¥10,000 A席 ¥8,500 B席 ¥7,500 C席 ¥6,000 P席 ¥5,000 Ys席 ¥2,500

第420回横浜定期演奏会

◆発売日: 3月16日(月) 10:00 ~

2026年9月19日(土) 15:00 横浜みなとみらいホール

指揮: オッコ・カム ピアノ: 河村尚子

ラフマニノフ: ピアノ協奏曲第2番 ストラヴィンスキー: バレエ音楽《春の祭典》

S席 ¥9,500 A席 ¥8,000 B席 ¥7,000 C席 ¥6,000 P席 ¥5,000 Ys席 ¥2,500

本日の公演は終演時のカーテンコールでの写真撮影が可能です

携帯電話・スマートフォン付属のカメラで着席のまま撮影をお願いいたします。フラッシュ、動画撮影はお控えください。詳しくは会場の掲示をご覧ください。

シーズンファイナルパーティー

参加費 無料

横浜定期恒例の
 シーズンファイナルパーティー!
 終演後1階客席ホワイエにて
 出演者のトーク、楽員による演奏を
 お楽しみいただきます。奮ってご参加ください。

※ドリンクの提供は見合わせます。

横浜定期演奏会の定期会員券をお譲りいただきました。1月の寄付者 匿名3名 敬称略・五十音順
 心より御礼申し上げます。

横浜定期会員の特典

横浜ベイホテル東急(横浜みなとみらいホール向かい)にて、メンバーズ優待を行っております。

飲食: 下記店舗で、飲食料金が10%OFFとなります。(4名様まで) ※除外日および対象外メニューあり

オールデイダイニング「カフェ トスカ」/ラウンジ「ソマーハウス」/中国料理「スーツァンレストラン陳」

※会計時に横浜定期会員券をご提示ください。※この割引は日本フィルのコンサート開催日以外にも有効です。
 ※指定以外の店舗、および宴会は対象外ですのでご了承ください。※他の特典・割引との併用はいたしかねます。

公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団

(1956年6月創立)

- 創立指揮者/渡邊暁雄
- 桂冠名誉指揮者/小林研一郎
- 名誉指揮者/ルカーチ・エルヴィン
- 名誉指揮者/ジェームズ・ロッドラン
- 客員首席指揮者/ネーメ・ヤルヴィ
- 首席指揮者/カーチュン・ウォン
- 桂冠指揮者兼芸術顧問/アレクサンドル・ラザレフ
- フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)/広上淳一

公式X(元Twitter)
@Japanphil



ソロ・コンサートマスター 扇谷泰朋 木野雅之 田野倉雅秋	ソロ・チェロ 門脇大樹 菊地知也	ソロ・トランペット オッタビアーノ・クリストーフォ	会長(代表理事) 平井俊邦	名誉顧問 熊谷直彦 島田晴雄 田邊 稔	団友 青柳哲夫 青山 均 赤堀泰江 新井豊治 石井啓一郎 伊藤恒男 伊波 睦 宇田紀夫 遠藤 功 遠藤剛史 大石 修 寛 美知子 加藤祐一 金本順子 蒲谷隆行 川口和宏 川口 貴 菊田秋一 岸良開城 吉川利幸 木村正伸 小山 清 齋藤千種 佐々木裕司 佐藤玲子 菅原 光 高木裕子 高木雄司 高木 洋 高倉理実 高山智仁 田沢 烈 立川和男 長谷川珠子 樋高雄太 藤田千明 豊田尚生 中川二朗 中里州宏 永田健一 中務幸彦 奈切敏郎 橋本 洋 畑井紀代子 平賀法子 福島喜裕 本田純一 松本克巳 松本伸二 三本克郎 宮武良平 三好明子 森 茂 山下進三 山科淑子 渡辺哲雄
アシスタント・ コンサートマスター 千葉清加	チェロ 石崎美雨 伊堂寺 聡 江原 望 大澤哲弥 久保公人 篠原和仁 山田智樹	トランペット ●大西敏幸 ○犬飼伸紀 中務朋子 星野 究	理事長(代表理事) 石塚邦雄	チーフマーケティングオフィサー 伊藤治彦	
第1ヴァイオリン 伊藤太郎 太田麻衣 九鬼明子 齋藤政和 柳 渚 竹歳夏鈴 成澤美紀 宮坂典幸 森田麻友美 山口雅之	コントラバス 鈴木優介 成澤美紀 宮坂典幸 森田麻友美 山口雅之	トロンボーン ●伊藤雄太 ○笠間勇登 福島莉那	専務理事(代表理事) 福井英次	マネジメントスタッフ 浅見浩司 磯部一史 江原陽子 及川ひろか 小川紗智子	
第2ヴァイオリン 遠藤直子 大貫聖子 岡田紗弓 神尾あずさ 佐藤駿一郎 末廣紗弓 豊田早織 町田 匡 松川葉月 山田千秋	フルート ●真鍋恵子 齋藤光晴 難波 薫	バス・トロンボーン 中根幹太	常務理事(代表理事) 後藤朋俊	理事 石井啓一郎 佐々木経世 田村浩章 戸所邦弘 葉田順治 福本ともみ 別府一樹	
ヴァイオラ ☆安達真理 江藤史織 小俣由佳 小中澤基道 児仁井かおり 高橋智史 中川裕美子 中瀧とも子 松澤雅奈	オーボエ ○杉原由希子 ○松岡裕雅 佐竹真登	ティンパニ ○エリック・バケラ ○池田健太	監事 福澤宏哉 細谷義徳	バスターン 萩島里帆 賀澤美和 香取春子 金田雅子 小須田萌 佐々木文雄 澤田智夫 篠崎めぐみ 杉山綾子 杉山まどか 高橋勇人 田中正彦 樋谷祐子 中村裕理里 西田大輔 西田真菜 長谷川珠子 樋高雄太 藤田千明 古舘順一 堀川 桂 益満行裕 宗澤晶子 山岸淳子 吉岡浩子 和田美希 シニア・パートナー 新井康允 伊波 睦 永島義郎 南部洋一 吉江信博	
	クラリネット ●伊藤寛隆 ○楠木 慶 照沼夢輝	パーカッション 大河原 渉 本間雄也	評議員 加藤丈夫		
	ファゴット ●田吉佑久子 ○鈴木一志 中川日出鷹	ハーブ 松井久子	評議員 青井 浩 安孫子 正 荒時康一郎 石村 等 稲垣 尚 内川清雄 大塚宣夫 梶浦卓一 河北博文 喜多崇介 木村恵司 久保田 隆 小林研一郎 島田精一 津田義久 中根幹太 西澤 豊 野間省伸 福満一夫 村上典吏子 山口多賀幸		
	ホルン ☆丸山 勉 ○信末碩才 伊藤 舜 原川翔太郎 村中美菜	チェフステージマネージャー 阿部紋子	楽団長 伊藤寛隆		
		インスペクター 鈴木優介 谷崎大起	チェフインスペクター 佐藤駿一郎		
		ライブラリアン 鬼頭さやか 坂庭史映 杉本哲也			

◎首席奏者 ☆客演首席奏者
○副首席奏者 □試用期間
(2026年3月1日現在)